

古民家の野外博物館

日本民家園だより

平成元年度第3号

《通号第18号》

発行 1.11.1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区併形 7-1-1

電話 (044)922-2180~1

印刷 (資) 永 申 社

さき 先志摩の歌舞伎、旧船越の舞台

- 旧船越の舞台
- 国指定重要有形民俗文化財
- 正面入母屋・背面切妻造、瓦葺、楽屋附属
- 平面積 184.64 m²
- 旧所在地 三重県志摩郡
大王町船越
- 昭和46年3月 大王町より川
崎市に寄贈
- 昭和46年8月 解体・輸送工
事着手
- 昭和48年3月 移築復原完了
- 昭和51年8月 重要有形民俗
文化財に指定される



旧船越の舞台（上演中）

◆ 民衆の力の結晶・歌舞伎舞台

芝居小屋ではなく観客席は野天で舞台と楽屋だけが建物としてある世にいう農村舞台は今でも全国にのこっており、会津の桧枝岐・山形の黒森・小豆島の肥土山などが知られています。これらと比べて規模・質とも遜色のないもので、土地の人による上演こそしていませんが、全国有数のものといえ、文化財にも指定されました。本園では民俗芸能大会を催して建物に“いき”を吹きこむようにしています。建物は他に比べて大きく正面間口が約6間もあり、楽屋は3ヶ所もあります。歌舞伎上演に必要な回り舞台・奈落・出語り（正面左右の出格子のところ）・花道・ぶどう棚などの機構もついており立派なものです。建築年代は棟梁の墨書や鬼瓦のへら書き銘により安政4年（1857）とわかりました。

屋根は瓦葺で上等ですが、特筆されるのは軒先瓦や鬼瓦に“若”の字が刻されていることです。これは建築・運営に若者組が大きくかかわっていたことを物語っています。記録・伝承によればこの若者組を中心として全村民が年1回6月14日の天王祭をめざして観客席をつくり、舞台の整備をし、上演の準備をして祭りの日を待ったといえます。これだけの舞台を建築し運営してきたことは漁村の経済力の豊かさもあるでしょうが、人間関係の強さと娯楽に寄せた期待の大きさを感じさせるものがあり、まさに民衆の力の結晶といえる貴重な民俗資料です。

◆ みどころ

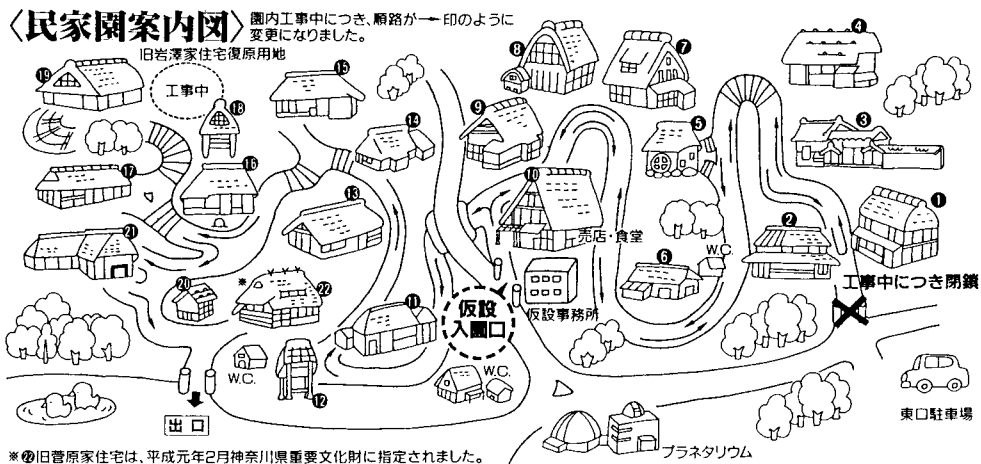
• 瓦の“若”の字、それに正面鬼瓦^{とじ}鱗の籠彫りの巧みさ
• 各種の舞台機構（奈落へは背面の仮設路より入れます）
• 規模の大きさ など

入園口・事務所移転のお知らせ

9月12日（火）より、民家園本館建設にともなう造成工事のため、入園口、事務所、見学順路が下図のように変更になりました。

入園者の方には、まず10番（旧山下家住宅）から1番（旧鈴木家住宅）へ向かって見学し、一旦仮設入園口まで戻り、次に11番（旧作田家住宅）から出口方面へ向かって見学するようご案内しています。特に団体入園の方は、所によりすれ違いに混雑する箇所がありますので、事前に下見されることをお勧めします。

なお、本館建設の工事期間は、平成4年3月末までを予定しております。皆様にはその間何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞご了承下さいませようお願いいたします。



〈川崎の民俗〉 事八日とミカワリ婆さん

12月と2月の8日を事八日^{コト}といいます。事八日のコトとは、本来は祭りとか斎事のコトであり、12月8日をコトハジメ、2月8日をコトオサメとよぶ関東の一部ではコトとは正月を示し、2月8日をコトハジメという地域では一年のコトの日の始めという意味でそうよんでいると考えられます。

事八日にはいろいろな神や妖怪が訪れるという言い伝えがあります。関東南部では、この日一目小僧^{ヨウカゾ}がやって来るので目籠を庭に高く掲げて追い払うという風習がありますが、特に川崎市周辺ではこの日を八日僧^{ヨウカゾ}といい、一目小僧や、やはり一目のミカワリ婆さんが来るので、目数の多い籠を立てたり、グミの木を囲炉裏で燃やして退散させると伝えられてきました。ミカワリ婆さんのミカワリとは、祭りにあたって神様を迎えるために清浄な状態に入る物忌^{モノイ}みのことで、身変わりを意味するものです。千葉県南部では、家の中で大声や物音をたてたり点灯・結髪・入浴などを避けて静かにすごすことをミカワリとよび、神を祭るのに適するように身を改めたといいます。

ミカワリ婆さんの伝承は、事八日の物忌^{モノイ}みが強調された結果生じたものと考えられています。地域によって、ミカエリ・ミカーリ・メカリ・ミカリ婆さんなどとも呼ばれていますが、このような伝承も最近ではあまり聞くことができなくなりました。

催物レポート “いろいろべの集い”

今年度初めての企画であった“いろいろべの集い”が好評のうちに終わりました。会場となった旧山田家住宅のいろりを囲んで、漬け物でお茶を飲みながら民家の雰囲気を味わい、昔の生活について講師とともに語りあっていただきました。

いろりにかけてあった鉄瓶がススだらけであったのを見て、「昔は鍋や鉄瓶を汚れたままにしておくのは女の恥だとされた」と話す農家の主婦の方から昔の生活の様子を聞いたり、川崎の古民謡で婚礼の時に唄われた「五反田節」の節まわしを習って全員で唄うなど、川崎での昔のくらしの一端に触れるとともに、園内の建物を教材として民家の造りを学んで、今年度民家園に移築復原される旧岩澤家住宅のふるさと愛甲郡清川村を訪ね、昔の生活環境を実際に見学するなど、盛りだくさんの内容となりました。参加者は、以前から民家園で一度床上に上がってみたいかったという方や都会で生まれ育ち古い民家にずっとあこがれを持っていたという方、また昔暮らした生活をなつかしむ方などで、少人数ながらも和気あいあいとした雰囲気の楽しい集いとなりました。

民家園ではこれからも“いろいろべの集い”のような皆さんに気軽に参加していただける催物を企画していきたいと思っています。



いろりを囲んで話がはずみました

1月までの行事案内

◆ 文化の日 無料開園 <11/3>

11/3は文化の日のため民家園は無料開園となります。当日は旧作田家住宅前にて入園者の方にわら細工を作っていたり自由参加行事も予定しております。皆様お誘いあわせの上、紅葉の民家園へ是非お越しください。

◆ 民具づくり教室—しめ縄作り—<11/26, 12/3・10>

ワカザリやゴボウジメなどお正月に飾るしめ縄を作ります。

○定員 30名 ○教材費 300円

○申し込み 11/12から往復ハガキで先着順

◆ 体験学習—小正月のマユダンゴ作り—<1/14>

小正月に木の枝に差してザシキなどに飾る赤・白・緑のマユダンゴを作ります。

○定員 25名 ○教材費 300円

○申し込み 12/24午前9時から電話で先着順

◀ 年中行事展示 ▶

<12月中>

◆ 八日僧 (ヨウカゾ)

魔除けに目籠を高く掲げる

◆ 正月準備 餅つき・すすはらい

<1月中>

◆ 神棚かざり しめ縄など

◆ 小正月行事 マユダマ・

アボ・ヘボなど



園の動き

◆ 平成元年度第1回民家園協議会開催〈7/21〉

◆ 体験学習—郷土玩具作り—〈8/20〉

水鉄砲、ブンブンごまなど、竹細工の郷土玩具を作っていたきました。夏休み中でもあり、親子づれを中心に約60名の参加者がありました。

◆ TBSテレビ「関口宏のサンデーモーニング」放送中民家園より生中継実施〈8/27〉

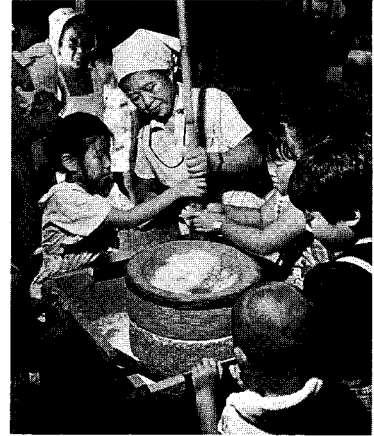
台風接近のため、暴風雨という生憎のお天気となったことが大変残念でした。次の機会を期待しています。

◆ 体験学習—十五夜ダンゴ作り、石臼で粉を挽く—〈9/10〉

一心不乱に石臼を回す子供さん達が印象的でした。参加者は20名でした。

◆ いろりべの集い—川崎の昔の生活を探る—〈10/7,14,21,28〉

◆ 平成元年度第2回民家園協議会開催〈10/17〉



石臼で粉挽き（写真提供：小池汪）



編集後記

平成元年度第3号の日本民家園だよりをお届けいたします。今回は歌舞伎舞台と、主に園内で行なわれます催物について紹介させていただいております。中でも体験学習や民具づくり教室は大変人気のあるものです。これからも多くの方に親しみを持って参加していただけるよう努力してまいりますので、寒い季節となりますが、どうぞ民家園へお越し下さい。（K）

博物館実習を終えて

日本民家園では、毎年各大学の依頼を受けて、「博物館学芸員」資格取得を目指す学生さんを実習生として受け入れています。今年も計4大学から5名の実習生が8月中旬から9月中旬までの1ヶ月間に来園しました。今年の実習は、収蔵資料の整理や園主催の行事（十五夜ダンゴ作り）の運営といったものの他に、広報用ポスター撮影の補助、民家園事務所の移転作業等が行なわれ、例年以上に盛り沢山なものでした。残暑の厳しい時期の忙しい実習でしたが、実習生にとっては良い体験となったようです。実習に参加した学生さんから、以下のような手紙が届きました。

拝啓 初秋の候、皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、9月1日から9月14日の館務実習中は大変お世話になり、ありがとうございました。初めて学芸員の方とお会いした時は、2週間もの間やっていけるだろうかと不安に思い、自信のないまま館務実習初日を迎えました。しかし始まってみれば、毎日が忙しく、また変化に富んでいましたので、最終日を迎えた時には意外と早く2週間が過ぎてしまったように感じました。私は所用で2回も貴重な実習を休んでしまい残念に思っておりましたが、幸運なことにポスター撮影に参加することができ、未体験の出来事に好奇心がかりたてられ、また撮る側、撮られる側、そして何より園の方々の苦勞の一部が見られたことが、他の人になかったような気がします。一緒に実習をしてきた他大学の方とも友好を深められ、楽しい実習となり、全てを通じ私自身にプラスとなった館務実習をさせていただきました。本当にありがとうございました。 敬具 （昭和女子大学文学部 田代千亜子）